

② 防災行動マニュアルを策定する前に

(1) 地域の状況と被害想定を確認する

① 災害図上訓練 DIG の実施

災害が起ったときに被害を最小限にとどめ、自主防災活動をスムーズに行うためには、地域で想定される災害の種類、被害想定、危険箇所、防災施設などを把握し、今現在不足していること、今から備えておくべきことなどについて事前に気付き、対応することが非常に重要です。

そのための有効な手法の一つに災害図上訓練 DIG があります。(地震編と水災害・土砂災害編は1枚の地図で同時に実施するのではなく、別に実施します。)

※ DIG は、Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の頭文字を取って命名されました。

● 水災害・土砂災害編 DIG

被害状況を把握するために

- * 京都市ハザードマップを参考に、浸水する箇所と範囲、またハザードマップに記載がなくても、過去に浸水したことがある地域があれば、その範囲を塗る
 浸水深3m未満→ **水色**
 浸水深3m以上5m未満→ **青色**
 浸水深5m以上→ **紫色**
- * 土砂災害のおそれのある箇所と範囲、またハザードマップに記載がなくても、過去に発生したことがある地域があれば、その範囲を**茶色**で塗る
- * 特に危険なところに**赤色の●シール**を貼る
(蓋・柵のない側溝や用水路、マンホール、溢水した橋上、アンダーパス、地下街、地下道など)
 自主防災部の一覧表(様式1)を作成し、水災害・土砂災害時の緊急避難場所などをわかる範囲で記載しましょう。

【水災害・土砂災害が発生する前に】

要支援者への対応は？ 避難は必要？ どこへ避難させる？
 避難先は遠すぎない？ 早めの避難で対応できる？
 避難先を同時に複数開設できる？

地図に避難経路を**緑色**、支援方法を**黒色**で記入

地域住民への伝達方法は？ 電話？ メール？ 戸別訪問？ 掲示？

伝達するための人数は足りている？

住民自身で情報収集してもらう？

事前啓発は十分できている？

まとめとしてこれからの対策を考える

災害が発生する前に、地域で行っておくことは？
(防災訓練と活動内容、備蓄品などの備え、
要支援者への対策、危険箇所排除など被害軽減のための取組、事業所との協定など)



● 地震編 DIG

自主防災部の一覧表（様式1）を作成し、地域の集合場所、避難所などをわかる範囲で記載しましょう。

被害状況を把握するために

- * 昭和35年以前に建築された古い木造住宅が密集している範囲をオレンジ色で塗る
- * 昭和55年以前に建築された木造住宅が密集している範囲を黄色で塗る
(区分がわからない場合は老朽家屋として一律黄色で塗っておく)
- * 地震の際に使えない道路や、幅員が狭くて消防車が入れない路地、老朽家屋（オレンジ・黄色で塗った部分）に囲まれた道路をピンク色でなぞる

【地震発生】

大地震が発生したときをイメージして

被害確認の方法は？ どのようにして確認する？

安否確認の方法は？ どのようにして確認する？

皆さんの地域の震度はどれくらい？

震度6強なら オレンジ色の面積の_____割を茶色で塗る
黄色の面積の_____割を茶色で塗る

震度6弱なら オレンジ色の面積の_____割を茶色で塗る
黄色の面積の_____割を茶色で塗る

全壊家屋はどれくらい？ 何人の方が閉じ込められる？

通行できなくなった道路は何箇所？ → 危険発生箇所に赤色の○シールを貼る

閉じ込められた人の救出・救護活動をイメージして（地震発生直後）

何人で助ける？ 助ける人の人数は足りている？

救助活動に必要な道具は何が必要？ 道具の数は足りている？

火災が発生したときの消火活動をイメージして（地震発生から20分後）

何人で消火する？ 消火方法は、バケツリレー？ 消火器？

消火活動する人数は足りている？

必要な道具の数は足りている？

バケツリレーの場合、水はどこからとる？

消火できない場合、避難誘導はどこから優先する？

まとめとしてこれからの対策を考える

災害が発生する前に、地域で行っておくことは？

(防災訓練と活動内容、備蓄品などの備え、危険箇所排除など被害軽減のための取組、事業所との協定など)



樣式 1

【作成例】

○○○学区自主防災会 自主防災部名一覧表
地域の集合場所・避難所・緊急避難場所・広域避難場所
(○○○○年○月○日現在)

自主防災部名	地震	水災害	土砂災害	地域の集合場所	ブロック集合場所	避難所	水災害時の緊急避難場所	土砂災害時の緊急避難場所	広域避難場所			
A自主防災部	○	○	○	○○児童公園								
B自主防災部	○	○	○	ちびっこひろば	北ブロック		○○○中学校 北校舎 2階以上	○○○中学校 北校舎 2階以上				
C自主防災部	○	○		△△公園	△△公園							
D自主防災部	○	○		○○保育園								
E自主防災部	○			××公園	中ブロック	第1避難所 ○○○小学校 ↓ (避難者数が多ければ) ↓	○○会館 (○○○第二学区) 及び ○○株式会社	○○会館 (○○○第二学区) 及び ○○株式会社	○○河川敷 及び ○○○中央公園			
F自主防災部	○			××公園								
G自主防災部	○			××商店								
H自主防災部	○			●●ガレージ	南ブロック	第2避難所開設 ○○○中学校 (E~L自主防災部) 及び ○○株式会社						
I自主防災部	○			◎◎地蔵前								
J自主防災部	○		○	◆◆神社								
K自主防災部	○		○	□□医院前								
L自主防災部	○			□□公園								

注1 内容に変更があった場合は速やかに自主防災会長まで連絡してください。

注2 それぞれの場所について、住民に周知しておいてください。

注3 地震・水災害・土砂災害について、該当する自主防災部に○を付けてください。

注4 水災害欄は、浸水深に応じて、土砂災害欄は特別警戒区域・警戒区域に応じて色分けしてください。

注5 不要な箇所は削除し、必要な箇所があれば追記してください。

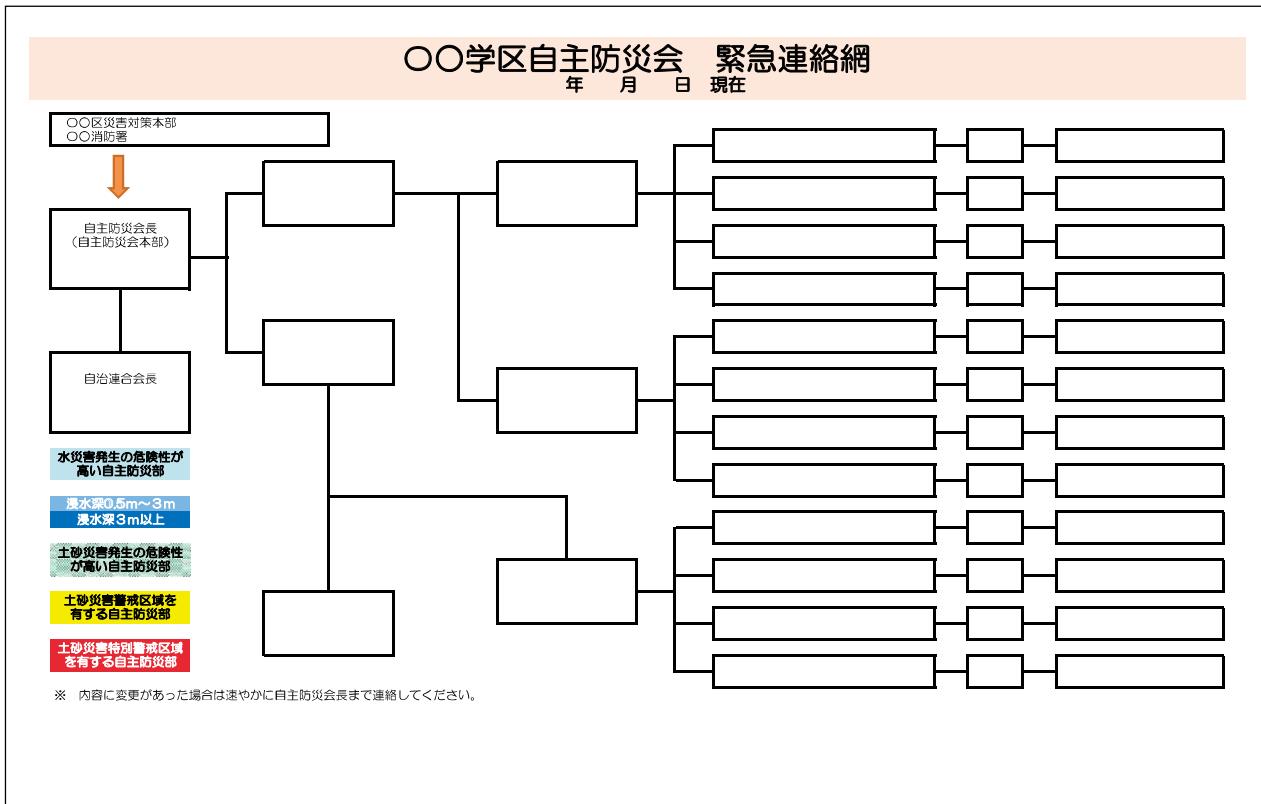
浸水深	土砂災害
0～0.5m未満	危険箇所
0.5～3m未満	警戒区域
3m以上	特別警戒区域

5

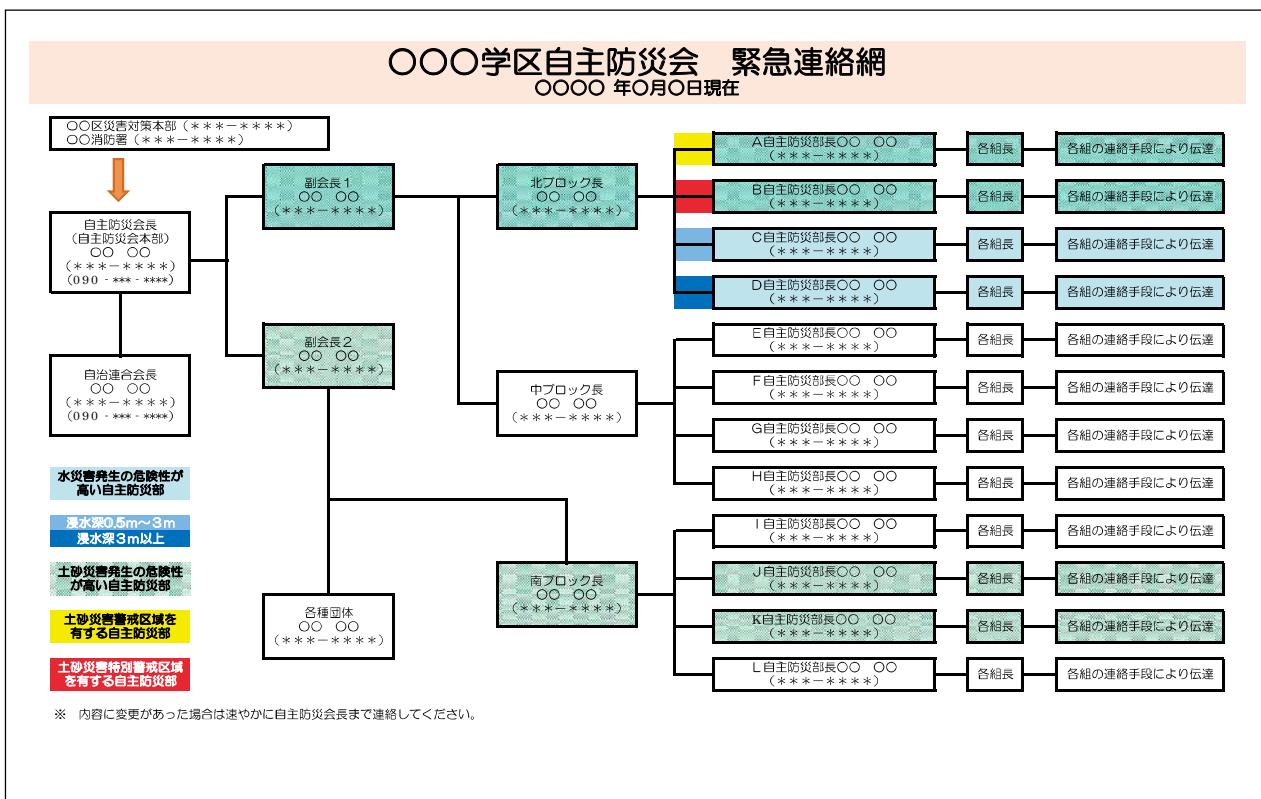
作成した一覧表は防災行動マニュアルの資料3として添付します。

その他必要な行政機関、地域の団体があれば記載しましょう。

様式 2



【作成例】



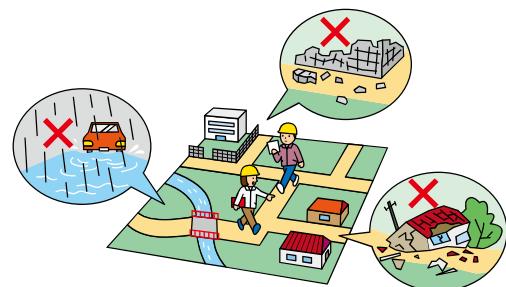
② タウンウォッチングの実施

災害図上訓練DIGにより、地域で想定される災害の種類、被害想定、危険箇所、防災施設など役立つ場所を把握できれば、実際にまちを歩いて、地域の危険箇所の現場検証を行いましょう。

地図上では確認できなかった危険箇所を新たに発見したり、危険箇所と思っているところがすぐに改修可能で被害の軽減につながることがあります。

また、避難ルートを実際に歩いてみて、「浸水したときにどういった危険があるか」、「要支援者は通行可能なルートか」、「災害の種類や時間帯によって変わる点はないか」などといった視点を持つて確認しましょう。

防災面だけでなく放火防止や防犯、地域の子供の見守り活動などにも活用できますので、各種団体と連携してタウンウォッチングを実施しましょう。



(2) 防災マップの作成・見直し

タウンウォッチングで地域の状況を確認できれば、それらの情報も合わせて防災マップを作成し、防災行動マニュアルの資料1として添付します。

また、組ごとの回覧板に、避難所、地域の集合場所を記載した防災マップを常にはさんでおくなど地域住民の皆さんで情報を共有するようにしましょう。

(3) 情報伝達の方法を検討する（緊急連絡網の整備）

水災害、土砂災害の発生のおそれがあるときは、区役所や消防署からの情報や、緊急避難場所の開設などを伝達するために緊急連絡網（様式2）が必要となります。

避難所運営マニュアルなどで既に作成されたものがあれば、その緊急連絡網を活用します。まだ、作成されていない場合は、これを機会に作成しましょう。

また、地域住民への伝達方法についても併せて検討しましょう。

緊急連絡網ができれば、防災行動マニュアルの資料2として添付します。

NEW

【取組・検討事例等紹介】

- トランシーバーや戸別訪問などの様々な方法で情報伝達することも検討している。
- LINEなどのSNSも活用する予定である。
- 複数の避難所に避難することも考慮し、本部からのリモート配信を検討している。
- 電話不通時の検証をしておく必要がある。
- 行政からのメールなどを活用した情報伝達を実施している。

NEW



ポイント

- ▶ 災害時だけではなく、平常時の連絡手段として、普及しているLINEなどのSNSを活用し、情報共有や情報伝達を図っていく。
- ▶ SNSが活用できない方、また、災害時には通信手段が途絶している状況もあることから、広報板、トランシーバー等を活用するなどの多様な情報伝達方法について検討していく。

(4) 地域での連携について検討する

自主防災会の活動を実施する際に、地域や参加者とのコミュニケーションを図るため、女性会、PTA等の協力を得て、女性や子供、高齢者など、幅広い年齢の方に参加いただくとともに、自主防災活動を地域団体等と連携して実施できるよう、各種団体との連絡網の作成や隣接学区等と日頃から連携しておくように努めましょう。

NEW

【取組・検討事例等紹介】

- 小学校が統廃合され地域で活動する住民が減少しており、組織単位のあり方を検討している。
- 隣接学区と連携しつつ、学区内の担い手も増やす取組を検討している。
- 活動内容を簡潔にし、負担感を軽減している。
- 学生の力を借りる仕組みづくりを検討している。
- 「防災推進委員」などを組織することも考えていく必要がある。

NEW



ポイント

- ▶ 自主防災活動に関係する人員が不足しているため、隣接する学区と連携していくことも検討していく。
- ▶ 学生や生徒、PTA、防災士、事業所などの地域団体等と連携した活動を実施し、人員不足の補完や活性化を図るとともに、地域団体から自主防災会の役員等に参画してもらうなどの一体的な体制を構築していく。